

令和6年度第2回品川区医療的ケア児等支援関係機関連絡会 議事要旨

開催日時	令和7年2月27日(水) 午後6時30分～午後8時			
開催場所	品川介護福祉専門学校 5階 特別講義室			
出席者	楠田会長、 濱野委員、 原田委員、 佐野委員、 福地委員、	小林委員、 菊地委員、 巻島委員、 中島委員、 三ツ橋委員、	福島委員、 島崎委員、 松崎委員、 藤村委員、 唐澤委員、	田島委員、 矢野めぐみ委員、 矢野圭子委員、 石橋委員、
議題	1. 開会 2. 挨拶 3. 議題 (1) 報告事項 ①品川区各課からの報告 保健センター・教育総合支援センター・保育施設運営課・子ども育成課・ 障害者支援課 ②インクルーシブひろばベル ③質疑応答 (2) 意見交換 医療的ケア児等支援の課題について 4. 閉会			
配布資料	委員名簿 座席表 資料1 すまいるスクール事業について 資料2 区立幼稚園医療的ケア児の受入れ開始について 資料3 障害者支援課における医療的ケア児への令和6年度の実践 資料4 インクルーシブひろばベル令和6年度活動報告について			

<議事概要>

1. 開会

2. 議題

(1) 報告事項

① 品川区の実践について、保健センター・教育総合支援センター・子ども育成課・保育施設運営課・障害者支援課より報告

品川保健センター

●保健センターの取組みについて説明（資料なし）

保健センターは、幅広い世代の方を対象に相談事業や支援事業を実施している。医療的ケアを必要とする乳幼児の家族からの相談や、医療機関からの連絡があった場合には、支援を開始し、その後、関係機関の紹介などにつなげている。

また、東京都福祉局が実施している在宅療育支援事業の中の訪問等の事業の利用申請を区の保健センターにて受け付けている。

さらに、災害時避難行動要支援者に対して、個別の支援計画を作成しており、本人、家族、関係機関、関係医療機関、行政の関係者の連携を図り、日頃より備えが重要という認識の下で実施している。

教育総合支援センター

●区立学校における医療的ケア看護師配置事業について説明（資料なし）

現在、区立学校においては、6校、7名のお子さんの医療的ケアに対応するため看護師を配置している。令和7年度に向けては、就学相談を通して配置を検討してきたが、配置の追加はない。今配置している6校において校内委員会を開催し、次年度に向けた対応の検討を進めている。

子ども育成課

●資料1「すまいるスクール事業について」説明

すまいるスクール事業は、「放課後子供教室」と「放課後児童クラブ」を一体型で行う区の事業として、区内の小学校および義務教育学校の37校で、小学生全員を対象に実施している。

令和6年10月時点の登録児童数は、1万1,300人。コロナ禍で少し減っていたが、今、1万人を超える水準まで戻ってきている。また、登録率では、1年生が9割を超えており、1年生から3年生までがメインユーザーとなっている。

スマイルスクールでも、看護師を派遣の上、医療的ケア児の受け入れを行っている。利用に当たっては、すまいるスクールで保護者と事前面談を行いつつ、看護師と協力・連携しながら対応している。

すまいるスクールにおける医療的ケア児の利用実績と見込みについては、資料に記載のとおり。令和7年度は3校、4名の利用予定である。

保育施設運営課

●資料2「区立幼稚園の医療的ケア児の受け入れ開始について」説明

これまで、医療的ケア児の受け入れは、区立保育園では、看護師を配置することで行ってきたが、区立幼稚園では、保護者に園内に来ていただき、医療的ケアや見守りを担っていただいていた。

このように、保護者に負担をかけていたため、今後、区立幼稚園でも医療的

障害者支援課

ケア児を円滑に受け入れる体制を整えるべく、今回予算要求をした。内容は区立保育園と同様に、看護師の配置、職員の研修、必要な物品の購入などを行い、受入れ体制を整えるもの。

また、今年度、私立保育園でも医療的ケア児の受入れ体制の整備を予算化した。内容は、看護師の追加配置や研修などの経費。実際、利用者との調整を行ったが、受入れ側の園と利用者の登園可能な範囲の関係がうまくいかずに、受入れの実現には至らなかった。来年度以降、うまくマッチングができるような体制を整備し、今後も私立保育園においても医療的ケア児が受け入れられるように努めていく。

●資料3-1「障害者支援課における医療的ケア児等への令和6年度の実施計画」について説明

前回の報告から変わった点については、次のとおり。

(1) 障害福祉サービス等の状況

①放課後等デイサービス

令和7年4月に1事業所が開設予定。

②品川区障害児通所支援事業運営補助金

令和6年度は4事業所に支給。

③重症心身障害児者等在宅レスパイト事業

登録者数について、前回報告は27人であったが、5人増え、32人となった。また、令和6年度から新たに看護師の派遣先に特別支援学校を追加した。利用実績が1人増えて3人となり、それに伴い時間数も増えた。

④医療的ケア児地域生活支援促進事業

「インクルーシブひろばベル」を指す。利用登録者数は、前回376世帯から442世帯へ増加。

⑤品川区重症心身障害者通所事業（ピッコロ）

令和6年度から人工呼吸器利用者の受け入れを開始した。現在も1名が利用している。

⑥医療的ケア児等コーディネーターの配置

活動実績については、退院前のカンファレンスの出席対象児が、前回5名のところ8名となった。また、障害福祉サービスにつながったケースは、前回1名のところ4名となった。

⑦品川区障害者医療ショートステイ事業

利用実績について、前は1件のところ4件に増えた。

⑧在宅の人工呼吸器使用者への非常用電源確保

助成実績について、前は1件のところ2件に増えた。

(2)その他事業

①医療的ケア児者に関する実態調査の実施

資料3-2について説明。前回、多くの意見をいただき再考した。概要としては、医ケア児と医ケア者、子どもと大人を別々に調査し、子どもは電子申請、大人は電子申請と紙の併用で行う予定。

配付先については、前回大田区で調査を行っているという情報をいただいたため、大田区に問い合わせ、一部参考にした。まず、区で把握している方については区から依頼文を送る。区内の訪問看護事業所については、配付。それから、医療機関については、医師会を通じて配付したとのことであったので実施方法の参考にする。

②医療的ケア専用ホームページ

令和6年度中に掲載予定。

③医療的ケア児ガイドブック(仮称)の作成(令和7年度予算案)

令和7年度作成予定。

④障害児通所支援等利用料無償化の実施(令和7年度予算案)

資料3-3について説明。障害者通所支援等の利用料を所得制限なく無償化することを考えている。対象とする事業は、資料に記載のとおり。

⑤障害児者医療ショートステイに係る交通費補助事業(令和7年度予算)

資料3-3について説明。事業としては、介護タクシー利用補助事業と障害児者医療ショートステイに係る交通費補助の2つを考えている。

介護タクシーに乗車するためには、現在、原則予約が必要であるが、運賃とは別の予約料、迎車料、基本介助料の支払いが発生し、経済的負担が大きいことから、補助を開始しようというもの。

障害児者医療ショートステイについては、受入れ先が都内でも遠方で、移動に係る交通費が高額になり、当事者の経済的負担が大きいため、軽減策として補助を行うことを考えている。

いずれも予算案の段階で、3月に議会で審議予定。

②インクルーシブひろばベル令和6年度活動報告について(資料4 インクルーシブひろばベル令和6年度活動報告)

●資料4「インクルーシブひろばベル令和6年度活動報告」について説明

○概 要

インクルーシブひろばベルは、障害あるいは医療的ケアのある親御さんにとっても安心して過ごせる場所として、2021年4月に誕生した。保育スタッフ・看護スタッフが常駐し、障害のある人も障害のない人も共に親子で利用できる子育てひろば。今年度途中より一時移転先にて事業を行っている。

○施設の利用状況

新規登録世帯数(令和6年4月から7年1月末)は139世帯、昨年度(令和5年4月から6年3月)登録は108件であったので、増加傾向にある。特にゼロ歳児の登録が増加。背景としては、友人同士の口コミで広がり、地域の子育て家庭の利用が多い。リピーターも増えている。

全登録世帯数は、累計で442世帯、そのうち、障害児あるいは医療的ケア児の割合は30%程度で、医療的ケア児とその他の発達障害もしくは何らかの疾患・障害のあるお子さんの割合は、約15%ずつとなっている。疾患例は資料に記載のとおり。

○相談対応

相談対応については、ひろば内での何気ない会話を通して悩みを聞くこともあるが、それ以外に相談ルーム「しゃベルの部屋」の予約相談を行っている。0～2歳児の利用が多いことから、障害に限らず子育てに関する相談が多い傾向にある。

○医療的ケア児等コーディネーターの活動

ベルには、医療的ケア児等コーディネーターが1名在籍しており、訪れた保護者に支援機関や親の会についての情報提供やサポートなどを行っている。大学病院のソーシャルワーカーから連絡があり、座位保持椅子の紹介などの情報を提供したこともあった。医療的ケア児の家庭が、家庭内だけに閉じこもらず、少しずつでも心地よくつながれる場所の一つとしてベルが機能するとうれしいと思っている。

○OR7年度に向けて

現在の一時移転先では令和7年8月末までの運営になるが、引き続き様々な親子に利用していただけるような施策を行っていききたい。また、近隣の児童発達支援や、放課後等デイサービスの活動の一環としてもぜひ活用してもらいたいと思っている。

●「障害者支援課からの報告」への質問

質問①「品川区重症心身障害者通所事業」への質問（資料3の1）

人工呼吸器利用者の受け入れを開始したことは、素晴らしいことだと思う。今後、特に呼吸器で医療的ケアが必要な方が、卒業後に行ける場所のニーズが増えていくと思うが、品川区で受皿が増える可能性はあるのか。

質問②「医療的ケア児者に関する実態調査の実施」への質問（資料3の2）

（1）児者は何歳で分ける予定か。

（2）性別は、施設利用を考えたときの人員配置に関係してくるため、質問に入れてもいいのではないか。

（3）特別支援学校に関わっている中で感じるが、児については、就学の状況が分かると良いと思う。訪問籍なのか通学籍なのか、訪問籍の場合は希望して訪問籍なのか、きちんと社会とつながれているのかといった点を聞いてほしい。

（4）者の中で、中途障害の方をどのように拾うのか。

（5）サービス利用について、区内に足りないサービスを把握するために、他区のサービスを利用している方を把握することが必要だと思うがどうか。

●「教育総合支援センターからの報告」への質問

質問③

（1）医療的ケアの方は、主に就学相談で拾うとのことであるが、就学相談で取りこぼしたことはあるのか。

（2）医療的ケアの看護師は必要であるが、就学相談での発達の検査は必要ないというお子さんもいる。こうしたお子さんは、どこに行けば良いのか分からないと思う。どこかに明示されているのか。

●「子ども育成課からの報告」への質問

質問④「すまいるスクール事業について」への質問（資料1）

すまいるスクールに配置している看護師は、どこから安定的に配置しているのか。

●回答（質問①）

ピッコロは、現在の定員は6人であるが、令和9年度には20人に増やす予定。既に人工呼吸器の方は来ていただいているので、受け入れの数は増えていくと思う。

●回答（質問②）

（1）基本的に18歳で分ける。なお、大人は、65歳で介護保険に切り替わるため、18歳から64歳を対象にしようと考えている。

（2）質問に追加する。

(3) 質問に追加する。

(4) 調査の冒頭に令和7年3月31日現在の年齢を入れているので、例えば手帳を取得した年齢を記載する項目を入れれば、現在の年齢と比較して見られると思う。

(5) 7の困っていることの中に、「区外の施設を利用している」という選択肢を設ける。

教育総合支援
センター

●回答(質問③)

(1) 令和3年度から実施しているが、取りこぼしの把握はしていない。

(2) 就学相談などの案内は、教育総合支援センターのホームページで行っている。電子申請で、医療的ケアが必要かというチェック欄がある。発達検査が要らないときは個別に相談しながら進めていきたい。

子ども育成課

●回答(質問④)

すまいるスクールの看護師は、派遣会社をお願いしている。

委員

●「障害者支援課からの報告」への質問

質問①「医療的ケア児者に関する実態調査の実施」への質問(資料3の2)

訪問支援をしている中で、経済的不安がないか、申請できる手当をもらっているかなど、家庭の経済状況の把握は必要。質問項目に加えてほしい。

会長

●回答(質問①)

7番の本人が生活するうえで困っていることの中に、「経済的な不安」という項目を入れればよいと思う。

委員

●「障害者支援課からの報告」への質問

質問①「医療的ケア児者に関する実態調査の実施」への質問(資料3の2)

大人の調査票は、家族が答える部分と本人が答える部分があり、1つの調査票で回答すると、お互いの思いがうまく出せないのではないかと。家族によっては、大分状況が違ってくるが、答える方が分かるような工夫ができないか。

また、お子さんの調査票は家族が答えると思うが、8番「家族が生活するうえで困っていること」の中に「世話をし続けることができるか不安だ」という項目がある。そこにチェックされると、子供の立場はどうなるのかと心配になる。

会長

●回答(質問①)

調査票の最初に誰が答えたかという設問を設ければ良いと思う。本人か、家族か、両者かの3つで良いと思う。

また、調査票の児者共通の項目の8番「家族が生活するうえで困っていること」の中の「世話をし続けることができるか不安だ」という項目については、単純に「将来が不安」くらいでもいいのではないかと。文言を考え、保護者に確

	認していただいて、それで問題なければ、調査票については、連絡会としてはゴーサインとしたい。
委員	●「インクルーシブひろばベルからの報告」への質問 質問①「インクルーシブひろばベル令和6年度活動報告」への質問（資料4） 病院のソーシャルワーカーと連携しているという話があり、とても良いと思った。長期のNICUから退院した後、こういう場につながれなくて、ずっと家にいるという方が多いので、退院時などに取りこぼしがないようにしていただきたい。1点質問であるが、座位保持装置は結構ニーズが高いと思うが、あくまでサンプルの提供なのか、サイズアップしたものを譲ったりしているのか。
認定 NPO 法人 フローレンス	当法人の行っている別事業で使わなくなったものを見ていただくという形で行っており、現状、譲ることはしていない。
委員	有効で余っているものがあったら地域の資源として使えるといいと思っている。何か良い案があったら考えていただきたい。

(2) 意見交換

○医療的ケア児等支援の課題について

委員	大田区で関わっている利用者の方で、夜間ヘルパーの経費に関して、支給されたケースがあった。人工呼吸器利用のたん吸引の多い方で、居宅介護で申請して支給となった。 1つ質問であるが、現在品川区で、たん吸引が多いなど家庭の事情があって、夜間に小児で居宅介護を利用している方がいるのか。また、いないとすれば、今後検討していく余地があるのかも教えていただきたい。
事務局	現在、小児でヘルパーが夜間に入っているという話は聞いたことはない。ニーズがあれば、検討する。
委員	親御さんにアンケートを取ると、主介護者の睡眠不足が一番に上がってくるので、今後夜間のニーズは増えてくると思う。また、実際にやってくれる事業者が区内にいるのかという点も大きな課題であると思う。

4. 閉会